前橋市自立支援協議会広報
みんなのらいふ　第２８号

発行日　令和４年２月１日

発　行　元：前橋市自立支援協議会
問い合わせ：前橋市障害福祉課　前橋市自立支援協議会
広報啓発部会　事務局
電話　027-220-5711
FAX　027-223-8856
URL　https://www.city.maebashi.gunma.jp/kenko_fukushi/4/10/1/11867.html

題字・作品を募集中

本紙に掲載する題字や作品（イラスト、挿絵等）を募集しています。あなたの作品で本紙に彩をそえていただけませんか。詳しくは事務局（連絡先は表紙に記載してあります）へお気軽にお問い合わせください。

次回の作品応募締切日は２月２８日（月）です。

【作　　者】えるも 利用者
【作 品 名】新聞紙アート
【作品説明】新聞紙のカラー刷りの所をちぎり絵にしました。

作品、各種団体の活動内容を紹介します！

前橋市自立支援協議会・前橋市では、障害福祉の啓発事業の一環として、障害のある人もない人も共に出会い、交流できる場として「みんなのフェスタ」を毎年の障害者週間に合わせて開催しています。

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、残念ながら「みんなのフェスタ」は開催できませんでしたが、絵画や貼り絵などの作品の掲載募集、団体やサークルが日頃から取り組んでいる活動の様子を取材しました。その内容を紹介します。

空想科学シリーズ
空想神キラメキノ

スーパースターになりたいという思いを込めて描きました。

作：大熊 賢太

すずらんのテープのバッグ

すずらんテープで編むのはとても力がいりました。

作：塩原 真弓

花火大会

花火の打ち上がった様子を貼り絵にしました。

作：ルンビニー苑
創作活動班

おはなし

五作続き物を書きました。好きな場面から読んでそれぞれの心で感じとってもらえたらうれしいです。①～⑤と読んでください。

一度順番に読んだあと、読む順番を変えると少し違った感じで読めるかもしれません。

ベスト

表と裏の２枚を別々に編んで肩と両脇を網綴じました。

作：新井　富美子

クッションカバー

色が鮮やかになるように工夫しました。

作：片岡　恵

ぼくの好きなキャラクター

キャラクターのそれぞれのパーツを発泡スチロールや木材で表現しました。色を塗る際には、マジックペンや絵の具を使いました。

作：嶋村　太壱

ライオン

好きな色を重ねて描いて、ライオンの毛を表しました。

作：髙橋　春翔

花火の親子

液体粘土に好きな色を混ぜて、明るい色の花火を描きました。

作：永井　優惺

ぼうし

紙粘土を型抜きしたり、ビーズをつけたりして素敵な帽子を作りました。

作：西野　紗永

小さな鳥が一羽、大きな木の一つの枝に止まっていた。ふと見上げるとそこには太陽がある。小鳥は太陽がふと気になった。いつもいつも空を飛ぶ自分の上で輝く太陽。小鳥はそれをちょっと見返してやりたくなっただけなのだ。そこへ向けて小鳥は飛び立った。目的は、いつも見下す太陽を今度は自分が見下してやるのだと。一心不乱に飛び続けた。しかし、飛べども飛べども太陽は近づかない。ただただそこにあり、自分を見下すばかりである。それでも飛んだ、飛び続けた。鳥のたけに合わない努力で飛んだ。しかし、翼は動きを止め、力尽きる。その時　小鳥は何かを悟ったのだ。空には太陽はない。しかしそこには太陽がある。それは決して届かぬ夢。小さな鳥が、たった一度一瞬考えた夢。

おはなし①

ハートのガリガリ君のおさら

棒をさして，アイスのようなお皿にしました。

作：高橋　もも

お店が飛び出す箱

様々なお店の名前だけでなく、買い物バックやお金、笑顔の人など買い物に関係のあることを取り入れて、箱をデザインしました。

作：赤石　悠

書道

季節の流れをイメージして書きました。

作：O・K

lake　load

スチレンボードにフォーク等を使って湖や道を表し、版画の下地を作りました。そして、４種類の駅スタンプの版をその上に重ねました。

作：関口　俊汰

滅

文字が反転しないように、切った紙を置くときに光に透かして完成の状態を確かめながら作りました。

作：古屋　悠希

海の巨大魚
ジンベイザメ・マンタ・カジキ

マンタの形をつくってがんばりました。

作：堤　蓮

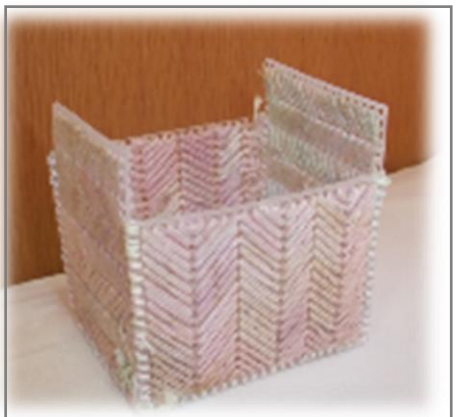
太陽はすべてをそこで見ていた。人が歩き、鳥が飛び、犬が吠え、猫が鳴く。そんな日常。ただ空に浮かび、輝き続ける太陽にとって、すべてはどうでもいい事だ。しかしふと見るとそこには鳥がいた。鷹とも白鳥とも違う小さな鳥が、自分に向かって飛んでくる。絶対に自分の所には届かない。ムリだろうと思ったが、しかし小鳥は飛ぶのを止めなかった。「オマエにはムリだ　あきらめろ」その言葉は小鳥には届かない、いや届いても止めないであろう。太陽は初めて興味を持った。しかし小鳥は力尽きた。真っ逆さまに落ちて行く。力無く真っ逆さまに。「おまえの努力はムダなんだよ」とでも言うかのように。一羽のカラスが、力尽きた鳥をさらって行く。哀れだが当然であろう。太陽はそう思いつつもどこか残念そうである。「おまえの努力はたしかにムダであった。しかし私は見ていたぞ」太陽は今日も空の上で輝いている。

おはなし②

プロペラ機

指が動かないので、パーツを差し込むのに苦労しました。

作：市川　郁夫



小物入れ

いろいろな色の糸を使用してカラフルな小物入れにしました。

作：畠山　まさ江

赤城山

色鉛筆を水でにじませて描きました。部屋から見える風景です。

作：立川　喜臣

うさぎとかめ

視覚障害者なので色を間違えないように並べるのが大変でした。

作：小嶋　芳香

毛糸のポシェット

マフラー状に３本作って横に並べて繋げて袋状にしました。

作：利根川　洋子

花火

視覚障害者なので色の説明を受けながら紙を丸めて枠の中に貼りました。

作：泉荘　３班

月はとてもつまらない。空にいるのは同じだが、太陽と違い　暗闇と電気の光が見えるだけだ。おっ、と見下ろしても花火は上からはよく見えず。虫やカエルの鳴き声も彼女にはどうでもよい。そんな月にも　一つだけ心待ちにしていた時間がある。日の出入りの時だけ、少し太陽と話ができる。たわいの無い話しかしないが、何も見えないよりはマシだ。そんなある日の事、太陽は一つ話をした。聞けば一羽の小鳥が自分を目指し飛んだが、力尽きたのだという。大きな鳥ですらも知っている　太陽には決して届かない。ただの笑い話ではないか　と月は笑ったが、太陽はそのことをとても楽しそうに話すのだ。その日を境に、月はますます退屈になった。太陽のような経験がしたい。しかし彼女は月、闇に浮かぶ月である。どんなに努力をしたとして　その姿は夜がおおい　決して彼女は見ることができないのだ。月は今日も不満気に闇に浮かぶのみである。

おはなし③

たまごチャーハン

お父さんが経営している飲食店で提供しているチャーハンを描きました。

作：杉本　佑太

パプリカ

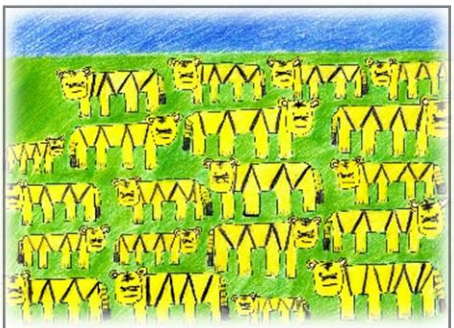
この絵はほんの一部です。普段からノートに書き込んでいて、すでに１０冊以上は溜まっています。

作：大島　瑠仁

アミーゴ動物園

誰とでも気軽に交わせる言葉「アミーゴ」。そんな言葉を動物にもかけています。

作：清水　郁実



寅年

いつも動物を描いています。不思議と必ず２０匹になっています。

作：赤井　俊太

りんご

動物から食べ物までいろいろなものを紙粘土で表現しています。

作：森　雄祐

みのむし

ペーパーの芯にのりを付け転がして切った毛糸を付けました。

作：えるも利用者

そこに生えるは　大きな木。時には人がその下に集まり、虫たちが幹を寝床とし、鳥がそこに住まう　大きな木。生きとし生きる物の集う木。ただ　そこにあり、大地に根付いて　すべてを見ている。ふと　そこにいた一羽の鳥が、自分の枝から空を目指した。意味があるとは思えない。木は大地からみている。太陽も月もすべて見ている。その鳥は　帰ってはこなかった。どこへ行ったのかは　わからない。いやどうでもよい。自分は　そこにあり待つだけなのだ。太陽や月のように輝くことも、小鳥のように羽ばたくことも彼にはできない。しかし、それでよい。木にとって、それは自分のあり方なのだ。一つの種から長き時をえてそこにたたずんだ自分の生き方だ。鳥が飛んでも、太陽や月が光っていてもそこにいて見守ることが自分にできる事なのだ。初めて気になった鳥は　どこに行ったのか。歩くことも泳ぐことも、飛ぶこともできない。彼は初めて残念な気持ちになった。

おはなし④

紅葉

貼り絵の創作活動が大好きです。作業の合間に制作しています。

作：荒井　初恵

友人

小学校１年生から書道講師の母に習字を習っています。

作：佐伯　亜矢子

ワンちゃんねこちゃん病気バイバイハートプロジェクト

ワンちゃんねこちゃん病気バイバイしてまほうのお薬を絵で。ポスターです。

作：永岡　泰都

捨て猫ストーリー

絵本より。

作：永岡　泰都

空で唯一何でも見ていられる物がいる。浮かぶ雲はまさにそれであった。昼の営みを夜の喧騒をいつも見ている。唯一の不満は、風に吹かれて自由が無い事だが、べつにいいと思っている。そんな彼の趣味は、飛んでいる物を見る事だ。人間の乗り物も鳥も、時にはクモや蝶も飛んでくる。そんな姿を楽しげに見ていた。ある日　一羽の鳥が通り過ぎていくのを見た。見たこともない小さな鳥である。何をしているのか気になったが、やがて鳥はすぐに落ちてきて、それをカラスが拾って行った。何を目指していたのかは、鳥にしかわからない。しかし、初めてそれを見た雲は　なんだか悲しくなった。その日雨が降った。しとしと　ぺちゃりと静かにしかし長い雨が。太陽も月もその時の雲には何も言うことができなかった。

おはなし⑤

群馬県要約筆記会

【事業・活動内容】

群馬県要約筆記会は、聴覚障害者に要約筆記による通訳をおこない、聴覚障害者の自立と公平な社会参加を支援しています。

要約筆記とは、耳の聞こえない人、聞こえづらい人に、話の内容をまとめて、その場で文字にして伝える通訳です。話を正確に聞き取り、要点をつかんで、短い文にまとめ、素早く表出することが求められます。手書き要約筆記とパソコン要約筆記があり、講演会や会議・医療機関への受診など、さまざまな場面で利用されています。

群馬県要約筆記会は、この４月に創立３０周年を迎えます。活動範囲は県下一円にわたり、会員は、要約筆記者と、要約筆記者を目指す人たちです。活動内容としては、定期的におこなう例会のほか、中途失聴・難聴者の会の支援、県下各地での啓発活動などがあります。前橋市では、要約筆記教室や「みんなのフェスタ」での体験コーナーなどを通して、多くの方々に要約筆記を知ってもらうための活動をしています。今年度は、３ 月に要約筆記体験教室が計画されています。会員は、意思疎通支援員として高い倫理観と実践力を持つ要約筆記者であるために、技術の向上をめざして日々研さんを重ねています。例会では、外部講師による教養講座も開催します。

（会員数）３５名
（例会）　第２・３水曜日
午後１時から２時３０分
県社会福祉総合センター(新前橋町)
※今後変更する場合があります。

【今後の活動について】

今後も例会を中心とした活動をおこなう予定です。コロナ以前のように、中途失聴・難聴者との交流会や旅行などの触れ合いも、再開したいと考えます。県内各地での啓発活動も活発に進めていく予定です。

【皆さんへのメッセージ】

要約筆記者になるには、県が主催する要約筆記者養成研修を受講する必要があります。群馬県要約筆記会では、皆さんと養成研修をつなげる活動もしています。要約筆記について、より深く知りたい方、体験をしてみたい方は、ぜひ、体験教室などにご参加ください。皆さんとの出会いを楽しみにしています。

つゆ草和太鼓愛好会

【事業・活動内容】

平成５年頃に４～５名で活動を始め、NPO を経て、平成 17 年、社会福祉法人となった「あかぎの響」の地盤であるつゆ草。療育を目的に始めた太鼓も、今では社会人となった人達の憩いの場になっています。

毎週金曜日午後８時から １ 時間だけの練習ですが、みんな楽しみに活動しています。

【今後の活動について】

コロナ禍でイベント参加が無く、収束を願うばかりです。

今までと変わりなく地道に練習を続けています。

【皆さんへのメッセージ】

１日でも早く皆さんの前で明るい笑顔で演奏できる日を楽しみにしています。

コロナに負けず頑張りましょう！

特定非営利活動法人　群馬盲ろう者つるの会

【事業・活動内容】

「盲ろう者」を知っていますか？
「盲ろう」とは,「視覚と聴覚の両方に障害を合わせもっている状態」をいいます。
視覚と聴覚に障害を負うことで、他者と円滑に会話をすることが難しくなり、単独で安全な外出が難しく、「コミュニケーション」「移動」「情報入手」の３つの困難を抱えています。
盲ろう者のコミュニケーション方法は、音声・手話・触手話・点字・指点字・手書き文字などひとりひとり違います。
つるの会では月に１度会議をして意見交換をしています。また地域のバザーに出品する作品を作っています。研修旅行や納涼会・新年会・クリスマス会、盲ろう者の運動不足解消に体操教室も行っています。

【今後の活動について】

群馬盲ろう者つるの会と盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業は連携し、盲ろう者のコミュニケーション及び移動の自由を確保し、社会参加を促進することを目的に活動を続けていきます。

【皆さんへのメッセージ】

盲ろう者を対象とした支援サービスがあるという情報が　視覚と聴覚の両方に障害があるゆえに本人のもとに届かない。又は、家族やまわりの人も知らないままでは、とても残念なことです。悩んでいる方がいたら是非「群馬盲ろう者つるの会」のことを教えてあげてください。
通訳・介助員養成講習会を実施し通訳・介助員を育成しています。

社会福祉法人すてっぷ　わーくはうすすてっぷ

【事業・活動内容】

わーくはうすすてっぷは、生活介護事業（定員 10 名）と就労継続支援Ｂ型事業（定員 20 名）の多機能事業所です。
現在は 29 名の方が通所し、身体や知的にハンディのある人たちの働く場、活動の場となっています。利用者さん一人ひとりの能力や個性を生かせるよう「パン製造販売班」「パソコン班」「創作活動班」「生活介護班」に分かれて活動しています。
月に１回アートサポーターを講師に招いて、アート活動も取り組み、利用者さんの自由で豊かな感性を「書」「絵」「イラスト」などに表現しています。

【今後の活動について】

今描いている絵をアニメーションにしてみたり、色をつけてみたりしたいです。
また、パソコンで絵を描いたりしてみたいです。今後も楽しく描いていけたらいいなと思います。（出展者談）

【皆さんへのメッセージ】

ぼくの絵を見て楽しんでもらえたり、色々なことを感じてとってもらえたら嬉しいです。
下書きなしで一発で描いているので、他の人はマネできないと思います。お客さんが欲しくなるような絵を描き続けていきたいです。（出展者より）

公益財団法人　日本盲導犬協会

【事業・活動内容】

盲導犬の育成と視覚障害リハビリテーション事業を通して視覚障害者の社会参加を促進し、視覚障害者福祉の増進に寄与することを目的に次のような事業を行っています。

1. 盲導犬の育成
2. 盲導犬訓練士・盲導犬歩行指導員の養成
3. 盲導犬育成に関する調査及び研究
4. 各種リハビリテーション訓練
5. 国内外の諸団体との連携・協力
6. 盲導犬の普及啓発

2020 年度は３２ユニットの視覚障害者に対する歩行指導及び盲導犬の貸与を実施しました。

コロナ禍によって視覚障害者向けの盲導犬体験歩行会や盲導犬説明会は開催数が減少しましたが、代わりにオンラインを利用したセミナーを開催する、自宅で個別の盲導犬説明会を実施するなどして、視覚障害者に盲導犬の情報を届けました。また、盲導犬ユーザーへはコロナ禍における困りごとや不安等に関する調査と定期聞き取り調査を実施、ならびにコロナ禍の協会状況を８回発信し、盲導犬ユーザーの不安減少に努めました。

盲導犬及び視覚障害への理解促進活動にもオンラインを取り入れ、また盲導犬に関する動画の配信、訓練センター見学ライブ中継など、新たな取り組みを行いました。

【今後の活動について】

日本盲導犬協会は近年、視覚障害リハビリテーション（以下、視覚リハ）の充実に一段と力をいれています。視覚リハとは、見えにくくなった方の相談に応じたり、新たな技術を身に着けるサポートを行うことです。誰一人取り残さない社会を目指し、目の見えない人、見えにくい人に盲導犬歩行や視覚障害リハビリテーションを届け続けていきます。また、盲導犬ユーザーが安全で快適に外出でき、そして社会で受け入れ拒否にあうことなく過ごせるよう、社会への理解促進にもより一層力を注いでいきます。

日本盲導犬協会公式
YouTube チャンネル

【皆さんへのメッセージ】

日本盲導犬協会では、盲導犬についての様々な情報を発信しています。公式 YouTube チャンネルでは、盲導犬について皆さんが持つ疑問を解決する「【かいけつ！】盲導犬の〇〇がキニナル？」を配信中。盲導犬ユーザーがどのように盲導犬の健康管理や衛生管理を行っているか、盲導犬ユーザーにどのように声をかけてサポートをしたら良いかなどを盲導犬ユーザーが解説しています。是非ご視聴ください。

また、視覚障害者向けの「オンライン盲導犬情報セミナー」、事業者の方々向けの「オンライン盲導犬ユーザー受け入れ・接客セミナー」など、役立つ情報を届けるセミナーを開催しています。皆様のご参加をお待ちしております。詳細はホームページよりご覧ください。

前橋市点訳サークル「むつみの会」

【事業・活動内容】

・活動日時　毎週木曜日　午後６時から
・活動場所　前橋市総合福祉会館　３階印刷室
・会員数　　２０名
・活動事業　前橋市視覚障害者福祉協会依頼による点訳
・活動内容　①前橋市視覚障害者協会各種会議資料の点訳
②前橋市視覚障害者協会民謡歌詞集点訳
③前橋市点訳奉仕員養成講座
④パソコン点訳勉強会
⑤蔵書及び絵本点訳（絵本の点字作成）
⑥その他（点字に関する依頼対応）

【今後の活動について】

点訳奉仕員養成講座の終了後に奉仕活動を希望する方も少なくなっております。しかしながら一般社会では小学校の教科書にも掲載されるようになってきており、その必要性は広く普及されるようになっております。そのため、点訳奉仕員を養成することにとどまらず、長く活動をしていただける方を増やすことにも注力して活動していこうと考えております。

前橋市視覚障害者福祉協会

【事業・活動内容】

前橋市在住の視覚障害者とその支援者で組織された団体です。視覚障害者の福祉の向上と親睦を図る目的で活動しています。
毎月第３日曜日に前橋市総合福祉会館で、午前中は盲卓球、午後からはゲームクラブ（盲人用オセロゲームなど）、カラオケ教室です。そのほか定期総会やボランティアとの交流会、バスを利用しての歩行訓練・各種講演会、カラオケ大会などを実施しています。

【今後の活動について】

視覚障害者は孤立しやすく行動もままなりません。毎日楽しく生きがいを持って暮らしていけるよう福祉制度などのアドバイスや情報提供も行っています。

前橋フライングディスククラブ

【事業・活動内容】

毎月第１・第３日曜日に、前橋市立特別支援学校の校庭（荒天時は体育館）で 10 時から１２時まで活動しています。７月から９月までは、９ 時３０分から１２時まで。
練習種目は以下の２種目です。どちらもフリスビーを使って競技をします。
・アキュラシー：正確性を競う。５m・７m先のアキュラシーゴールに１０枚投げて、通過した枚数で競う。
・ディスタンス：距離を競う。３枚投げて、一番遠くまで投げた距離を計測して競う。
※その他に時々レクリエーションもあります。

【皆さんへのメッセージ】

２０２９年には群馬県で大会が開かれます。開催県ですのでたくさんの人が参加できます。ぜひ、みんなで一緒に練習して参加しましょう！

【今後の活動について】

毎年、障害者スポーツ大会県大会を行っています。そのほかに、選手権大会なども行っています。
国民体育大会の後に行っている、全国障害者スポーツ大会の正式種目にもなっているので、予選会を行って全国大会にも行くことがでいます。来年は栃木県で行われます。

前橋市聴覚障害者福祉協会

【事業・活動内容】

前橋市の聴覚障害者による団体です。昭和23年10月に「前橋ろう福祉会」として、結成されました。現在の「前橋市聴覚障害者福祉協会」という名称は、昭和49年3月に改称されたものです。

聴覚障害者の人権尊重と生活向上、社会福祉の発展を図ることを目的として活動しています。また、会員相互だけでなく、関係団体とも連携し、親睦・交流行事のほか、福祉・文化・体育・手話通訳に関することなど、多岐にわたる事業を行っています。

前橋市在住の聴覚障害者であれば、誰でも入会できます。

前橋市手話通訳者協会

【事業・活動内容】

群馬県認定手話通訳者の前橋地域の会です。手話通訳の技術と知識を高め、通訳活動上の課題解決や手話通訳者の地位の確立のために活動しています。聴覚障害者のコミュニケーション保障及び情報保障を行い、聴覚障害者団体や関係団体とともに活動を進め、聴覚障害者の社会参加と福祉の向上に努めています。

なお、手話通訳者は独自に作成している倫理綱領に基づいて活動し、守秘義務などの責任を負っています。

前橋手話サークル連絡会

【事業・活動内容】

前橋手話サークル連絡会には、前橋市にある6つの手話サークルが加盟しており、「前橋市聴覚障害者福祉協会」、「前橋市手話通訳者協会」など関係団体と連携しながら活動しています。

どの手話サークルもいつでも見学・入会できます。ぜひ足を運んでみてください。

サークル名		活動場所	活動日時
みつばの会		前橋市総合福祉会館 （前橋市日吉町二丁目17番地10）	毎週水曜日 19:00～21:00
あさひの会		前橋市総合福祉会館 （前橋市日吉町二丁目17番地10）	毎週木曜日 10:00～12:00
にじの会		南橘公民館 （前橋市日輪寺町158番地）	毎週金曜日 19:00～21:00
四季の会		第五コミュニティセンター　第二集会室 （前橋市文京町三丁目20番地36）	第2･4土曜日 10:00～12:00
鳥居の会		富士見公民館 （前橋市富士見町田島866番地1）	毎週火曜日 19:00～21:00
らっこの会		下川淵公民館　会議室 （前橋市鶴光路町701番地）	第1・3・5火曜日 19:00～21:00

編集後記

障害者週間に合わせて開催していた「みんなのフェスタ」は、感染症拡大防止のため、やむを得ず中止となりました。昨年に引き続き中止となり残念ではありますが、出演・来場される方の安全を第一に考えた末の苦渋の決断でした。

本号では、「みんなのフェスタ」に出演・出展してくださる各団体の皆さまの活動の様子や、数多くの素敵な作品を掲載しました。彩豊かな紙面をご覧になった皆さまに、晴れやかな気持ちになっていただけると幸いです。今回に限らず、本紙では題字や作品を募集しています。詳しくは表紙の案内をご覧ください。一緒に紙面を盛り上げましょう。ご応募をお待ちしております。

感染症が収束したら、また皆さまに笑顔でお会いできることを楽しみにしています。冷え込む時期が続きますので、健康には十分お気を付けください。

（長岡　俊充）